愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	キャリア基礎		
担当者(Instructors)	梶田 政人	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

3年時から本格的に始まる就職活動へ向け、基礎的な能力を高めるための授業です。 1年時に基本をしっかり理解し、次年度以降への基礎学力固めを行います。 特に企業の採用選考の中で多く用いられる「SPI3」について、実際の問題を解いていただくことで理解を深めます。 授業終了後も継続的に取り組むことができるよう、目標設定に対するプランニングにも取り組みます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	この講義は主に企業の適性検査で多く用いられる「SPI3」の試験を中心に講義・演習を交えて実施します。 最低限のマナーとして、講義中の私語、携帯端末の無断利用、入退室は原則禁止します。 筆記試験は講義で習ったことを中心に中間、期末の２度実施します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション（プランニング） 非言語分野１　言語分野１（非言語では内容が算数数学であること、言語では出題傾向について学ぶ）	授業の取り組み方と内容の確認、採用選考の筆記試験の概要を学びます 非言語分野（損益算）　言語分野（反意語）	□
第2回	非言語分野２　言語分野２（非言語では割合など、言語では同意語について学ぶ）	非言語分野（割合の基礎、比・比例配分）　言語分野（同意語）	□
第3回	非言語分野３　言語分野３（非言語では濃度など、言語では同音異義語について学ぶ）	非言語分野（濃度・人口密度、物の流れと比率）　言語分野（同音異義語）	□
第4回	非言語分野４　言語分野４（非言語では分割払いなど、言語では外来語などについて学ぶ）	非言語分野（料金の割引、分割払い）　言語分野（外来語、難解な語句）	□
第5回	非言語分野５　言語分野５（非言語では損益算など、言語では四字熟語などについて学ぶ）	非言語分野（損益算・四則逆算）　言語分野（四字熟語、古事成語）	□
第6回	非言語分野６　言語分野６（非言語では確率など、言語ではことわざなどについて学ぶ）	非言語分野（場合の数、確率）　言語分野（ことわざ、二語の関係・語句と意味の対応①）	□
第7回	非言語分野７　言語分野７（非言語では速さ、言語では二語の関係・語句と意味の対応について学ぶ）	非言語分野（速さなど）　言語分野（二語の関係・語句と意味の対応②、③）	□
第8回	非言語分野８　言語分野８（非言語では仕事算など、言語では二語の関係・語句と意味の対応について学ぶ）	非言語分野（仕事算、正多面体）　言語分野（二語の関係・語句と意味の対応④、⑤）	□
第9回	中間テスト（９）、テスト解説	１～８回目までの範囲から出題	□
第10回	非言語分野１０　言語分野１０（非言語では軌跡、平面パズルなど、言語では熟語の成り立ちについて学ぶ）	非言語分野（軌跡、平面パズル）　言語分野（熟語の成り立ち）	□
第11回	非言語分野１１　言語分野１１（非言語では推論、暗号、言語では文章のつながりについて学ぶ）	非言語分野（整数、推論（命題・論理））　言語分野（文章のつながり）	□

第12回	非言語分野１２　言語分野１２（非言語では整数など、暗号、言語では敬語について学ぶ）	非言語分野（整数、N進法）　言語分野（敬語①、②）	□
第13回	非言語分野１３　言語分野１３（非言語では暗号など、言語では複数の意味、現代文読解について学ぶ）	非言語分野（暗号、命題）　言語分野（複数の意味、現代文読解①）	□
第14回	非言語分野１４　言語分野１４（非言語では順序関係など、言語では現代文読解について学ぶ）	非言語分野（順序関係、対応関係）　言語分野（現代文読解②）	□
第15回	非言語分野１５　言語分野１５（非言語では玉手箱対策として資料の読み取りなど、言語では現代文読解について学ぶ）	非言語分野（資料の読み取り、空欄推測）　言語分野（現代文読解③）	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：不要 事後学習：習った内容の復習、特に間違った問題、苦手な問題について復習すること（4時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

中間試験について：1時間程度の本格的試験です。ここで失敗すると期末試験での挽回が必須となります。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	自己の能力開発のため、最初に目標設定と実行プランをプランニングし、半期を取り組む。 目標に対して実行する主体性を養う。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
50%			50%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

中間テストが５０点、期末考査が５０点の合計１００点満点です。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	ＳＰＩ３言語・非言語分野については授業内で指定いたします。双方で合計3～4000円かかります。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		